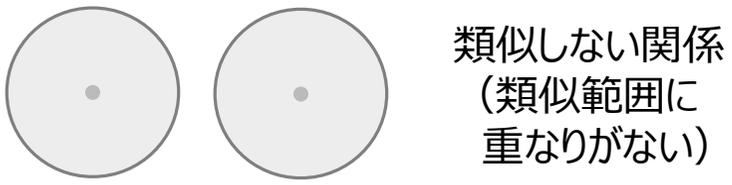
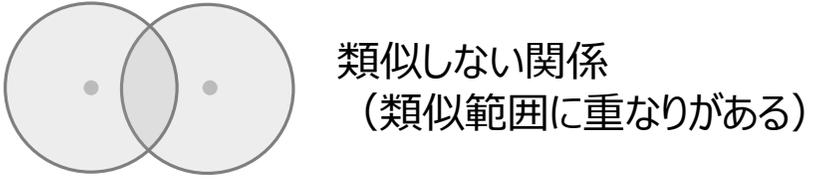
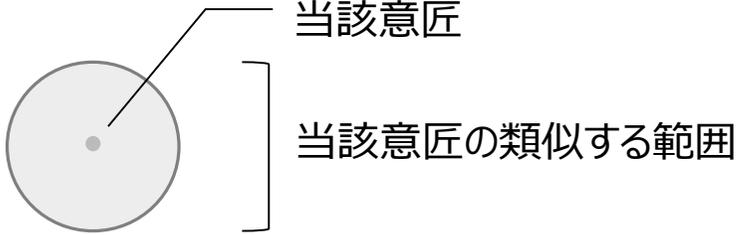


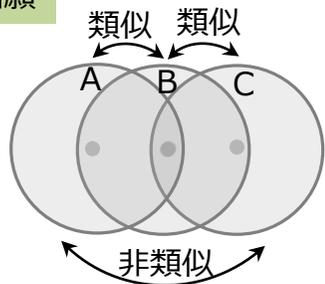
**同一出願人により出願された二以上の意匠登録出願についての
意匠法第9条及び第10条等の規定の適用について
(意匠審査便覧記載事項一部抜粋) (案)**



同日に出願された類似する意匠（１）

現行法下

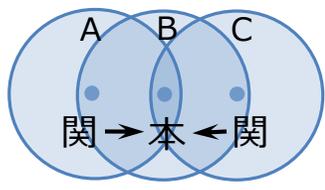
同日出願



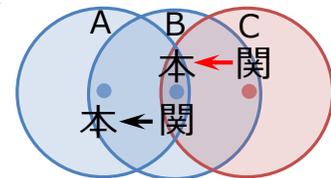
AとB、BとCの間に協
議を指令する。

本意匠の表示の欄を追加する補正

応答例



Bを本意匠とし、AとCをそ
の関連意匠とした場合、
A,B,Cは意匠登録を受け
ることができる。

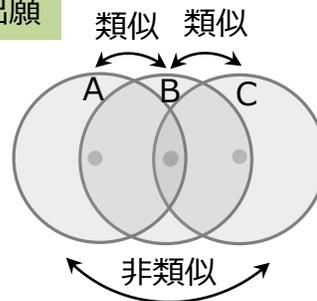


関連意匠にのみ類似す
る意匠Cは、意匠登録を
受けることができない。

Bを本意匠としない限り、A,B,C全てが登録とはならない。

改正法下

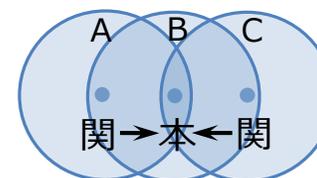
同日出願



AとB、BとCの間に協
議を指令する。

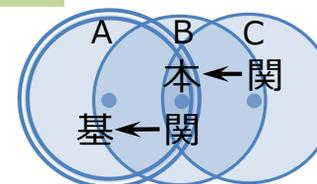
本意匠の表示の欄を追加する補正

応答例 1



Bを本意匠とし、AとCをそ
の関連意匠とした場合、
A,B,Cは意匠登録を受け
ることができる。

応答例 2



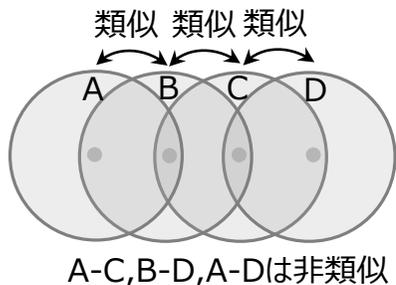
Aを基礎意匠とし、Bをそ
の関連意匠、さらにCをBの
関連意匠とした場合も、
A,B,Cは意匠登録を受け
ることができる。

Bを本意匠としても、A又はCを基礎意匠としても、
A,B,C全てについて意匠登録を受けることができる。

同日に出願された類似する意匠（２）

現行法下

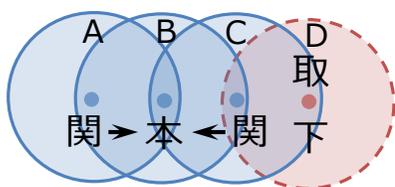
同日出願



AとB、BとC、CとDの間に協議を指令する。

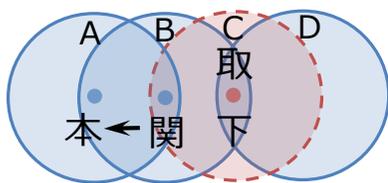
取下げ及び本意匠の表示の欄の補正

応答例 1



Dを取り下げ、BをA,Cの本意匠とした場合、A,B,Cは意匠登録を受けることができる。

応答例 2

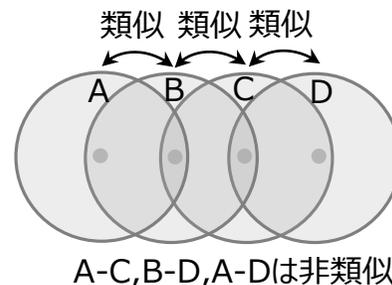


Cを取り下げ、AをBの本意匠とした場合、A,B,Dは意匠登録を受けることができる。

A,B,C,Dのうち、いずれかを取り下げなければ、その他について意匠登録を受けることができない。

改正法下

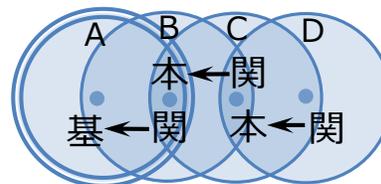
同日出願



AとB、BとC、CとDの間に協議を指令する。

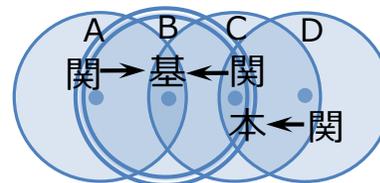
本意匠の表示の欄の補正

応答例 1



Aを基礎意匠とし、B,C,Dを連鎖する関連意匠とした場合、意匠登録を受けることができる。

応答例 2



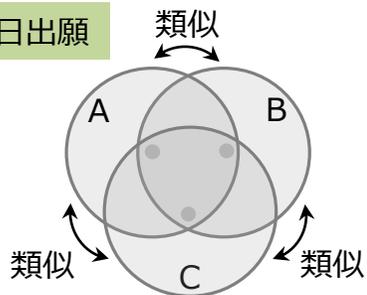
Bを基礎意匠とし、A,C,Dを関連意匠としても、意匠登録を受けることができる。

A,B,C,Dのうち、いずれかを基礎意匠として、A,B,C,D全てについて意匠登録を受けることができる。

同日に出願された類似する意匠（3）

現行法下

同日出願

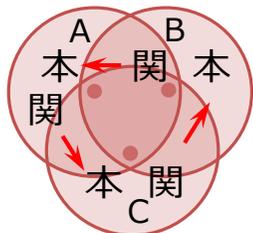
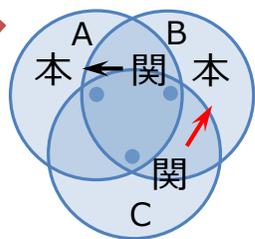
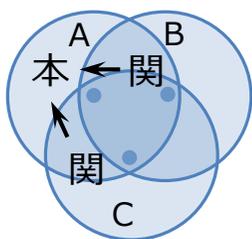


AとB、BとC、CとAの間に協議を指令する。



本意匠の表示の欄を追加する補正

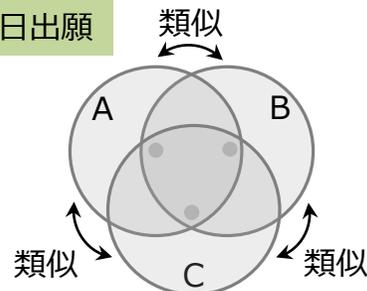
応答例



補正は、A,B,Cのいずれかを本意匠とし、その他をその関連意匠とする。関連意匠にのみ類似する意匠は、意匠登録を受けることができない。

改正法下

同日出願

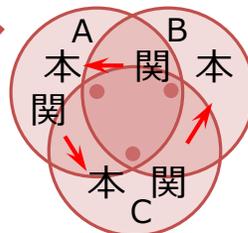
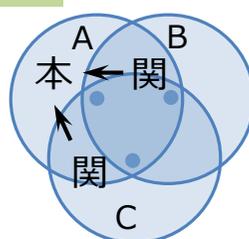


AとB、BとC、CとAの間に協議を指令する。

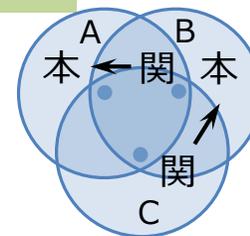


本意匠の表示の欄を追加する補正

応答例 1



応答例 2

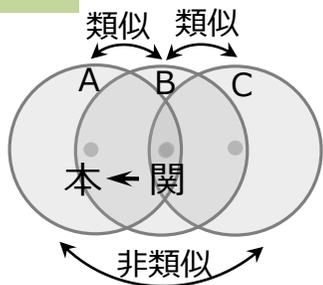


A,B,Cのいずれかを本意匠とし、その他をその関連意匠とする応答方法と、A,B,Cのいずれかを基礎意匠とし、その他を連鎖する関連意匠とする応答方法がある。ただし、基礎意匠は一つを選択する必要がある。

同日に出願された類似する意匠（４）

現行法下

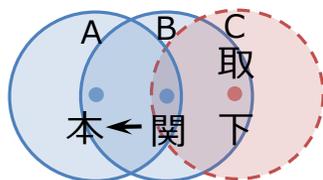
同日出願



拒絶の理由がないAは先に登録する。
BとCの間に協議を指令する。

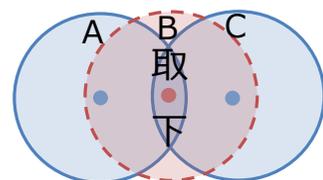


応答例 1



Cを取り下げた場合、A, Bは意匠登録を受けることができる。

応答例 2

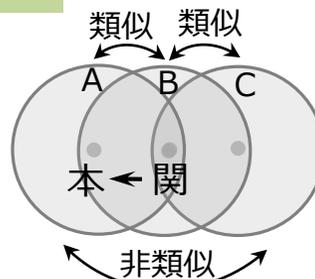


Bを取り下げた場合、A, Cは意匠登録を受けることができる。

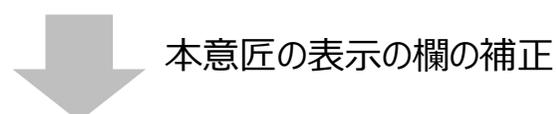
Aが先に登録されているため、Bを本意匠とすることができず、B, Cはいずれかを取り下げなければならない。

改正法下

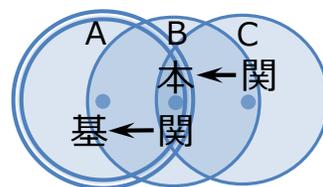
同日出願



BとCの間に協議を指令する。
Aは、B, Cの協議を待つ待ち通知を行う。

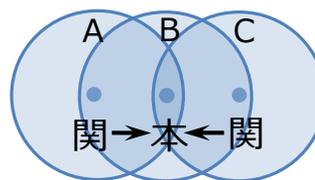


応答例 1



Aを基礎意匠とし、Bをその関連意匠、さらにCをBの関連意匠とした場合も、A, B, Cは意匠登録を受けることができる。

応答例 2



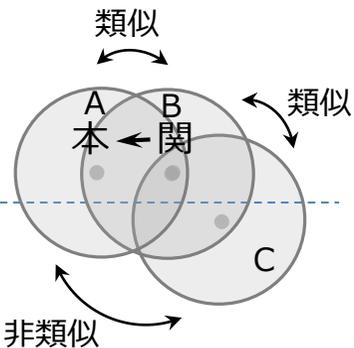
Bを本意匠とし、AとCをその関連意匠とした場合、A, B, Cは意匠登録を受けることができる。

Aの登録を待っているため、A, B, Cのいずれを基礎意匠又は本意匠とするかを選択することができる。

異日に出願された類似する意匠（１）

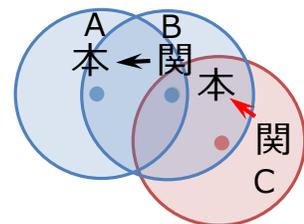
現行法下

先願



拒絶の理由がない
A, Bは先に登録する。
CにはBを引用意匠と
する9条1項の拒絶
理由を通知する。

後願

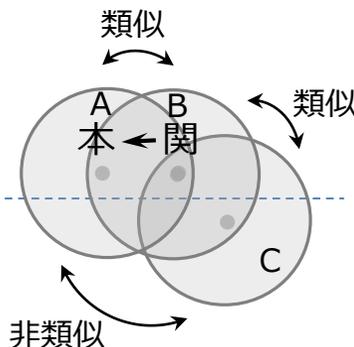


関連意匠にのみ類似する
意匠は意匠登録をうけ
ることができないため、Cは
Bを本意匠とする補正を
しても、拒絶理由が解消
しない。

A, Bは先に登録されているため、Bを本意匠、Aを関連意匠にする変更ができず、Cは意匠登録を受けることができない。

改正法下

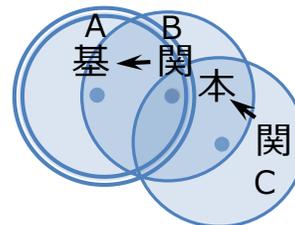
先願



拒絶の理由がない
A, Bは先に登録する。
CにはBを引用意匠と
する9条1項の拒絶
理由を通知する。

後願

応答例



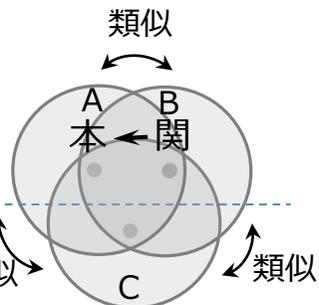
CはBを本意匠とする補
正をすることで意匠登録
を受けることができる。

関連意匠にのみ類似する意匠についても意匠登録を受けることができるため、Cも登録となる。

異日に出願された類似する意匠（２）

現行法下

先願

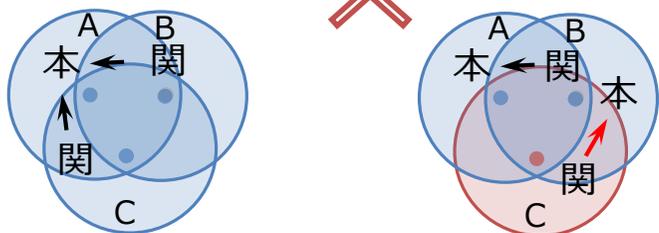


拒絶の理由がない
A,Bは先に登録する。
CにはA,Bを引用意匠とする9条1項の拒絶理由を通知する。

後願

本意匠の表示の欄の補正

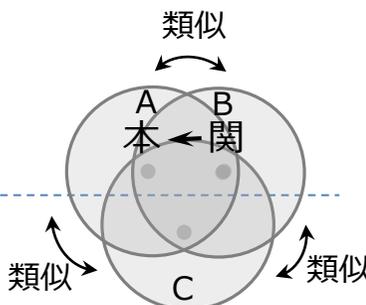
応答例



A,Bは先に登録されているため、Bを本意匠、Aを関連意匠にする変更はできず、Cが登録となるためには、Aを本意匠とすることしかできない。

改正法下

先願

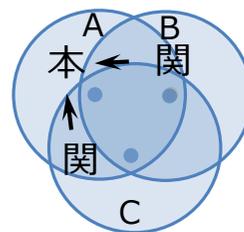


拒絶の理由がない
A,Bは先に登録する。
CにはA,Bを引用意匠とする9条1項の拒絶理由を通知する。

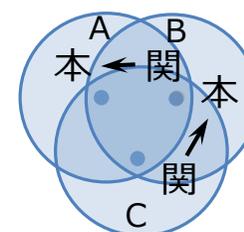
後願

本意匠の表示の欄の補正

応答例 1



応答例 2



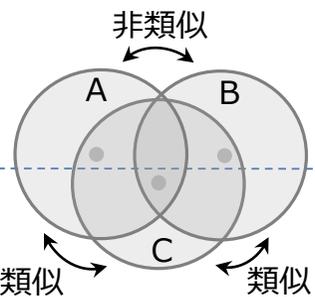
A,Bは先に登録されているが、関連意匠に類似する意匠も登録を受けることができるため、Cは、A,Bいずれでも本意匠とすることができる。

なお、Cが出願時から、A又はBを本意匠に指定していた場合は、Cについてもそのまま登録する。

異日に出願された類似する意匠（3）

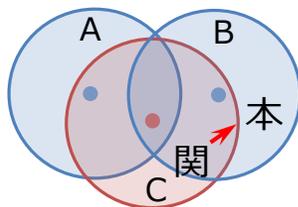
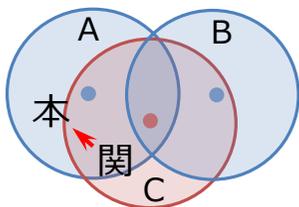
現行法下

先願



拒絶の理由がない
A,Bは先に登録する。
CにはA,Bを引用
意匠とする9条1
項の拒絶理由を
通知する。

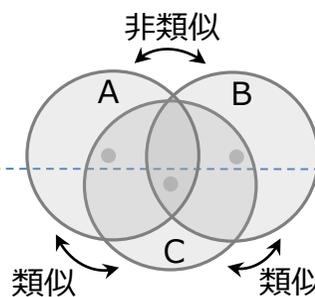
後願



Cは、Aを本意匠としても、Bを本意匠としても、他方を引用意匠とする拒絶理由が解消せず、意匠登録を受けることができない。

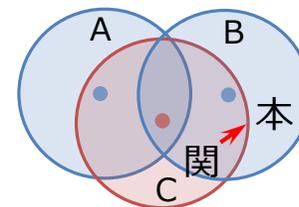
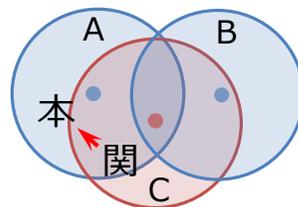
改正法下

先願



拒絶の理由がない
A,Bは先に登録する。
CにはA,Bを引用
意匠とする9条1
項の拒絶理由を
通知する。

後願

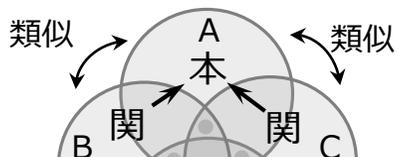


改正法下においても、本意匠と関連意匠の関係にない複数の意匠登録の意匠に類似している場合、意匠登録を受けることができない。

異日に出願された類似する意匠（４）

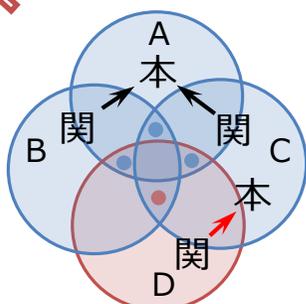
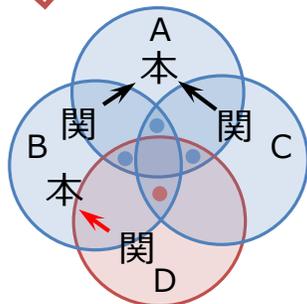
現行法下

先願



拒絶の理由がない
A,B,Cは先に登録
する。
DにはB,Cを引用
意匠とする9条1
項の拒絶理由を
通知する。

後願



Dは、Aとは類似しないため、Aを本意匠とすることはできず、関連意匠にのみ類似する意匠は意匠登録を受けることができないため、B,Cも本意匠とすることはできない。

改正法下

先願

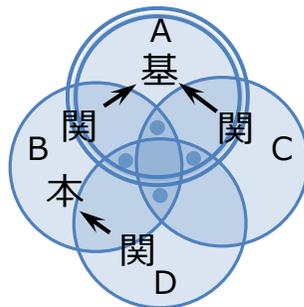


拒絶の理由がない
A,B,Cは先に登録
する。
DにはB,Cを引用
意匠とする9条1
項の拒絶理由を
通知する。

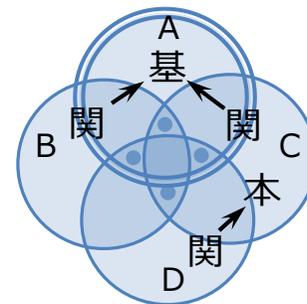
後願



応答例 1



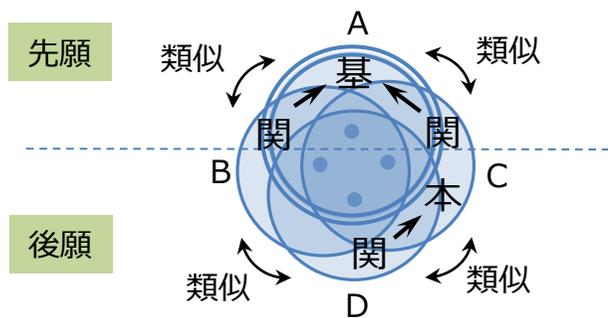
応答例 2



Dは、B,Cいずれでも本意匠とすることができる。
本願意匠と類似するとされた先願の意匠同士が類似していない場合であっても、それら先願の意匠が一つの基礎意匠に係る関連意匠のグループであれば、本願は意匠登録を受けることができる。

その他複雑なケース・公知意匠との関係について

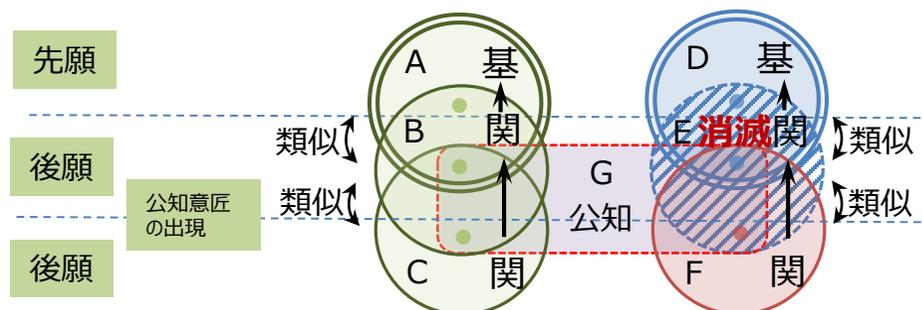
改正法下・異日



上記4意匠はいずれも相互に類似

Dは、Cを本意匠とする関連意匠出願であるが、基礎意匠であるAや、その他の関連意匠であるB及びCとも類似している。このような場合であっても、Dが本意匠として指定したCと類似しているときは、Dについて、AやBとの類否判断を行うことなく、Cを本意匠とする関連意匠の登録を行う。

改正法下・異日



公知意匠Gは、B,C,E,Fと類似

基礎意匠Dに係る関連意匠Fの登録の可否の判断においては、同Eが消滅した後は、Eと同一又は類似の自己の公知意匠であっても、新規性等の判断の基礎とする資料から除外できない。他方、基礎意匠Aに係る関連意匠Cの登録の可否の判断においては、別の基礎意匠に係る関連意匠であるEが消滅した後であっても、Bが存続していることにより、10条8項の規定の適用が受けられる。